

# 平成19年度 病害虫発生予察情報

## 発生予報第9号（8月後半～9月前半）

平成19年8月20日  
島根県

### 予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量		
普通作物	イネ	穂いもち	平年並		
		紋枯病	平年並～やや多い		
		白葉枯病	平年並		
		ツマグロヨコバイ	平年並		
		トビイロウンカ	多い		
		コブノメイガ	やや多い		
		カメムシ類	やや多い		
		ダイズ	ハスモンヨトウ	やや多い	
		果樹	ナシ	黒斑病	平年並
				シンクイムシ類	やや多い
ハダニ類	やや少ない				
カメムシ類	やや少ない				
カキ	うどんこ病			平年並	
	カキミガ			平年並	
	カメムシ類	やや少ない			

中国地方1か月予報（8月18日～9月17日・広島地方气象台8月17日発表）

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>

気温	20%	40%	40%
降水量	30%	40%	30%
日照時間	30%	40%	30%
	低い(少ない)	平年並	高い(多い)

防除所ではいもち病、水稻ウンカ類、コブノメイガ、果樹カメムシなどの最新情報をホームページ上に掲載しています。

アクセスはこちら <http://www.jppn.ne.jp/shimane/>

#### 1) イネ

##### (1) 穂いもち

予報内容

発生地方

全域

発生量

平年並

予報の根拠

①初発生は8月6日で、ほぼ平年並みである。

②伝染源となる葉いもちの全般の発生量は平年に比べてやや少ないが、局地的には発病程度の高い圃場も散見される。

③8月第1半旬以降の感染好適日の出現回数はほぼ平年並みである。

④向こう1ヶ月の気象は本病の発生を助長する要因とはならない。

(2) 紋枯病

予報内容

発生地方

全域

発生量

平年並～やや多い

予報の根拠

①全般の発生量はほぼ平年並みである。

②向こう1ヶ月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(3) 白葉枯病

予報内容

発生地方

常習発生地

発生量

平年並

予報の根拠

①全般の発生量はほぼ平年並みである。

②向こう1ヶ月の気象は本病の発生を助長する要因とはならない。

(4) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方

全域

発生量

平年並

予報の根拠

①予察灯での誘殺数はほぼ平年並みである。

②8月上旬の巡回調査では寄生虫数21.0頭/50株（平年39.2頭）、発生圃場率76.9%（同84.5%）ともに平年並みである。

③向こう1ヶ月の気象は発生を特に抑制する要因とはならない。

(5) トビイロウンカ

予報内容

発生地方

全域

発生量

多い

※ウンカ情報No.4(8/13)を参照

予報の根拠

①予察灯での誘殺数は平年に比べてやや多く、飛来ピークは7月第1半旬である。

②8月9～10日の巡回調査では寄生虫数3.0頭/50株（平年0.24頭）、発生圃場率41.0%（同4.0%）で平年に比べて多い。

③向こう1ヶ月の気象は発生を特に抑制する要因とはならない。

(6) コブノメイガ

予報内容

発生地方

全域（発蛾最盛期までに出穂を迎えていない作型）

発生量

やや多い

予報の根拠

①県内平坦部圃場での発蛾最盛期は8月8～10日頃である。

②向こう1ヶ月の気象は発生を特に抑制する要因とはならない。

(7) カメムシ類

予報内容

発生地方

全域

発生量

やや多い

予報の根拠

①8月5～15日の防除員調査では、カメムシ類合計で2.7頭/10回振（平年2.2頭）、調査した45%（平年69%）の圃場で捕獲され、発生量、発生圃場率ともに平年並みである。（昨年同期：4.8頭/10回・89%）

②向こう1ヶ月の気象は発生を特に抑制する要因とはならない。

2) ダイズ

(1) ハスモンヨトウ

予報内容  
発生地方 全域  
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の誘殺累積数は、出雲市で平年比146.3%とやや多い。
- ②8月中旬のダイズ圃場調査では白変葉をわずかに確認した。
- ③向こう1ヶ月の気象は発生を特に抑制する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容  
発生地方 ナシ（二十世紀）栽培地帯  
発生量 平年並

予報の根拠

- ①7月下旬の巡回調査での発病葉率は17.9%で平年並みである（平年18.6%）。
- ②向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) シンクイムシ類

予報内容  
発生地方 ナシ栽培地帯  
発生時期 やや遅い  
発生量 やや多い

予報の根拠

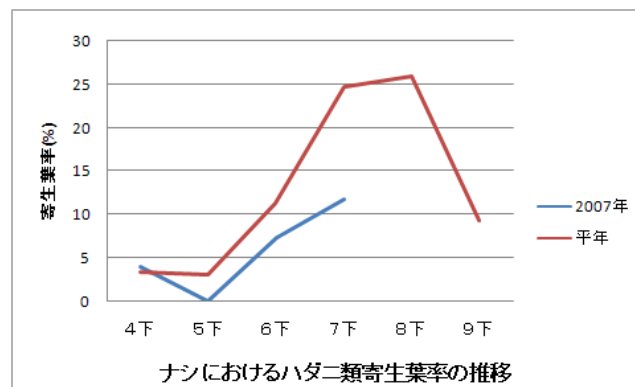
- ①予察圃場（安来市・出雲市）のフェロモントラップでのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺盛期はやや遅く、誘殺数はやや多い。
- ②向こう1ヶ月の気象は発生を特に抑制する要因とはならない。

(3) ハダニ類

予報内容  
発生地方 ナシ栽培地帯  
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①7月下旬の巡回調査では、寄生葉率は11.7%（平年値24.8%）とやや低く、寄生虫数も14.6頭/50葉（平年84.0頭/50葉）とやや少ない。
- ②向こう1ヶ月の気象は発生を特に助長的する要因とはならない。



(4) カメムシ類

予報内容  
発生地方 ナシ栽培地帯  
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①予察圃場（出雲市）のフェロモントラップ及び予察灯でのカメムシ類の誘殺数は50頭（平年907.6頭）とやや少ない。
- ②向こう1ヶ月の気象はカメムシ類の発生を特に助長する要因とはならない。

## 2) カキ

### (1) うどんこ病

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

① 7月下旬の巡回調査での発病葉率は6.8%で平年並みである（平年8.5%）。

② 向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

### (2) カキミガ（第2世代）

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

① 第1世代幼虫による芽および果実の被害は平年並みであった。

② 向こう1ヶ月の気象は発生を特に助長する要因とはならない。

### (3) カメムシ類

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 予察圃場（出雲市）のフェロモントラップ及び予察灯でのカメムシ類の誘殺数はやや少ない。

② 7月下旬の巡回調査ではカメムシの被害果を確認していない。

③ 向こう1ヶ月の気象はカメムシ類の発生を特に助長する要因とはならない。

## 農薬の安全使用の徹底を！

- ・ 農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・ 防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・ 農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・ 水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・ 有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・ 散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・ 病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

### 島根県病害虫防除所

（島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫グループ）

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ <http://www.jppn.ne.jp/shimane/>